

一貫教育制度の具体的内容

教育内容・指導方法		教育内容・指導方法の詳細
学年 ブロック	各教科9年間の系統性を図った教育	基礎学力の確実な定着を目指すため、各教科等において子どもの発達段階に応じ、内容の系統性を図った教育を展開する。また、9年間を子どもの発達段階に応じて、4・5制や4・3・2制などに分け、基礎基本の確実な定着を図る時期と応用力、発展力などを身に付ける時期など、学年や時期により学習内容の重点化を図る。
	国語と算数・数学における系統的学習	基礎学力の定着を図るため、9年間の系統性が比較的強く、生きる力の根底としての基礎基本となる教科である国語、算数・数学において、学習内容を工夫した上で、本市のモデルプランを作成し、教育内容の系統化を図る。また、全ての児童生徒が「できた」という喜びを味わえるようにし、学習意欲を高めるとともに、学習習慣を身に付けるため、朝の時間、放課後等を効果的に利用して漢字・計算などの定着に努める。
教育内容	元氣アップ教育（体育等）	健康の保持増進と体力向上を図るため、休み時間、給食等様々な学校教育活動と関連を図った体育科の授業を展開する。
	宮っ子心の教育 （道徳の時間、体験学習）	9年間を通して宮っ子として求められる規範意識や公共心などの道徳性を育むため、現行において週1時間実施されている道徳の時間の充実と、この時間と関連を図る体験活動を位置づけた道徳教育を展開する。また、道徳的実践力を高めるため、様々な学年の児童生徒や地域人材等との交流する場を位置付ける。
学習指導	「会話科」「英会話科」によるコミュニケーション力の育成	今後の社会を心豊かに生きるコミュニケーション力の育成を図るため、日本語や英語などによる表現力の育成を図る「会話科」や音声によるコミュニケーションを重視し、実際の会話で役立つことを学ぶ「英会話科」の授業を展開する。
	宮っ子チャレンジ等体験を活用したキャリア教育	社会人として必要な職業観、勤労観を育むため、現在中学校2年生で実施されている「宮っ子チャレンジ」の成果等を生かし、総合的な学習の時間や社会科など各教科等における体験活動を中核としたキャリア教育を推進する。
指導方法	習熟度別学習	学力の向上を図るため、児童生徒の実態や各教科の内容に応じて習熟度別学習を取り入れ、子ども一人一人に対応した補充的な学習や発展的な学習を行う。
	教科担任制を中心とした授業	多面的に子どもよさや可能性を見取り伸ばすため、教員の専門性や得意分野を生かした「教科担任制」を、各小学校の実態に応じて柔軟に導入する。このため、小学校教員も自らの専門性を磨き、9年間を見通した教科の目標や内容を系統的に分析するなど、自らの資質向上が必要である。
学校生活適応	小中学校教員による小中交流授業	学力の向上や子ども一人一人のよさや可能性の伸長を図るため、小学校における中学校教員が専門性を生かした授業や、中学校における小学校教員とのTTの授業など、小中の定期的な授業交換を行うなどして、9年間を見通した適切な指導を展開する。
	ALTによる指導	会話科や英会話において、音声によるコミュニケーションを重視したり、実際の会話で役立つことを学ぶことができるよう、小学校へのALT配置を検討する。ALTは、担当教員とTTにより、授業を展開する。
学校生活適応	中高連携授業	将来に対する夢や希望を育むため、高等学校との連携を図った高度で専門的な授業を行う。
	児童生徒指導の充実	小中学校9年間を見通した十分な学校生活適応のため、中学校に複数生徒指導担当教員配置の検討し、小学校への定期的派遣により、児童生徒の情報交換はもとより、一人一人に応じた適切な指導を行う。
学校生活適応	特別支援教育の充実	子どもの社会的自立を目指し、一人一人の成長を大切にしながら教育を展開するため、小中学校の特別支援教育の充実はもとより、小中学校間の連携を充実できよう、特別支援教育担当者の小中学校配置を検討する。
	教育相談の充実	子どもの心の悩みやいじめ、不登校に対応するため、現在、全中学校に派遣されているスクールカウンセラーの小中学校派遣を充実する。
学校生活適応	異年齢交流活動の推進	社会性や思いやり、夢と希望などを育むため、小中学生の交流活動や縦割り活動等、異年齢交流活動を豊富に取り入れる。
	幼保小中連携事業	学習態度や生活習慣の基礎基本を身に付けられるよう、生活科などにおいて幼保小の連携した授業を展開する。また、中学生が幼稚園や保育園において交流活動を行うなど、幼保中の連携も積極的に行う。幼保小中の教員は、相互の情報交換を密に行い、学習活動や学校生活全般にわたる子どもよさや可能性を多面的に見取り、一人一人に対する指導支援の方向性を明らかにする。